

毎日歌壇

加藤 治郎 選

炎天の直立暗き向日葵を仰げばしんとわが昭和あり
垂水市 岩元 秀人

△評▽昭和の真夏である。敗戦を想起してもよいだろう。ヒマワリが痛ましい。短歌という詩型が日本の歴史に對峙している。

降りる駅にはまだ遠く隣から貧乏ゆすりの暗号がくる
大津市 世田 夏雪

△評▽電車内である。貧乏ゆすりを暗号と
思うと奇妙なドラマの始まりのようだ。

遠すぎてわからなくなる 海に行くために早起したあの日まで 名古屋市 森本 有

夏の陽を反射しているアスファルト完璧にするラムネを飲んで 兵庫 廣澤 真希

灯台のひかりの先でわたしたち球体みたいにひとつの命 川崎市 新井 将

悲劇とはこの行く先が悲劇だと思ってしまうサンタモカリーフォルニア1955 宮古島市 塩見 伴

ジョアン・ミロを見たあとに飲むコーヒーに溶けるミルクは白きキューブ 東京 福島 隆史

図書館というオアシスにつらつらと活字をする猛暑日の午後 春日部市 宮代 康志

「未来さんもしもですがどうですか」○○○○Qドゥニモムリデス 戸田市 水沢わさび

おたがいの地獄を半分持ち寄ってキャンフファイヤーでもいたしましょう 京都市 岡本 沙織

水原 紫苑 選

羊飼いきれば羊はひろがって花のまぶたの老いる七月 加古川市 石村 まい

△評▽羊飼ひ、すなわち神が去って、羊はひろがり、羊たちの無邪気な罪が花に年をとらせるのだろうか。

荒地でも螺鈿の箱を持つ君が立てばこんなに煌びやかだよ 枚方市 久保 哲也

△評▽君とは誰だろう。人間か女神か。美しい箱を持つ存在が荒野を宮殿に変える。

群衆を率いて最初に地に降りた雨粒へ惜しみない拍手を 東京 石川 真琴

祈らねばならぬことほど折れずに紫陽花ひとつ濡れてる午後 さいたま市 青木 諭

おおらかな弧を描きつつ飛ぶ鳥の穏やかでない出発の頃 京都市 右手のハンマー

仄暗しコンクリートに沈む日の恍惚のなか胎児は眠る 雲南市 熱田 俊月

しのはせる銀の鉄のただしさよ スピカ、星座は断つためにある 東京 山野ゆかり

信号の赤をすすめにしないよう近くのひとと手をにぎりあう 川崎市 塚 格那

食欲な薔薇を探しているのです光は待ってくれないけれど 岡山市 松井 度

血液が青色だったならこんな青色がいい 八月の朝 さいたま市 雨谷 詩穂

伊藤 一彦 選

山々はわづかにちがふ蒼きもて君はきみだと語りくるなり 横浜市 谷口 菜月

△評▽同じように見えて色の異なる山々。そんな山たちを眺めて聞こえてきた言葉をうたう。どの「蒼」もうるわしいのだ。

四十年前の最高気温いま最低気温の日本列島 池田市 黒木 淳子

△評▽このように言われてみれば本当にそうだと思う。来年以降はどうなるだろう。

連日の猛暑に老いは戦いを挑む気持の毎日の夏 奈良 札谷 篤

妻くれし冷たき続くマグカップ炎暑の現場の我を支える 春日市 伊藤 亮

本日のトップニュースも酷暑なり戦無き世よ永遠であれ 京都市 根来美知代

廃城のごとく聳えぬ我が町に唯一在りし総合病院 吉野川市 喜島 成幸

極地まで描くあたはぬメルカトル世に境界のあるを知るべし 秋田 三浦 政博

終了のチャイムとともに走り出す君はプチプチ弾けるように 宮崎 門田 藍子

サイレンの音に負けじと円陣はダブル主将の合図で叫ぶ 鳥取市 中之島 潤

欲深い生き物だこと蜘蛛の糸さえも私は握めないはず 川崎市 飯塚 潮音

米川千嘉子 選

乳足りて眠る子寝かせ息子の妻は母乳バンクの乳をしぼりぬ 那須塩原市 柴田 道子

△評▽わが子に十分な量を与えてなお母乳があまる人が、それを必要として得られない子らへ。具体的場面面に説得力がある。

日本人何が「ファースト」入院で他国の人の働きを見つ 高崎市 樋浦マサエ

△評▽病院や施設、コンビニ、あらゆる現場で、多くの人が日々感じている。

もう人を殺さないため精神を病みたる兵士、なにを忘れき 東京 池崎富実夫

三日前冷えしスライカを分けくれし友は逝きたり大暑の夕べ 千葉市 中村キヨ子

ふわふわのワンピース白いスニーカーそれでも我は席を譲らる 仙台市 小野寺寿子

初恋のことは墓まで黙つてるとつくに今は妻の方が好き 横浜市 大建雄志郎

ゆびさきで心の楯をめくるようにあなたにくれた汗ふきシート 四日市市 早川 和博

「日本のトランプ」といふ騒がしさ「日本のフーテン」をらざる安堵 高松市 島田 章平

サーファーが身をくねらせて波くぐる地球の鼓動受け流すように 小平市 加藤 厚子

学歴がなくて市長に選ばれりゃその方が格好良かったはず 大田区 岩谷 政子

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要)毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句は「毎日俳壇」、○○先生(希望選者名)係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム

(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。

他媒体との二重投稿や同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開します。



こちらから投稿できます